

「税」について考える

税務課 課税係 ☎0738-23-5504

中学生の「税」についての作文

日高納税貯蓄組合連合会、御坊納税協会、御坊税務署は、御坊税務署管内の中学生を対象に「税」についての作文の募集を行い、管内全中学校から1,810編の応募がありました。審査の結果、御坊市内から次の皆さんが各賞に選ばれました。

大阪国税局長賞

日高納税貯蓄組合連合会 最優秀賞

大成中学校 2年

文蔵 理世さん



作文紹介

題名 『私が生まれた理由』

私が生まれた理由。私がこの世に生まれて来たのは、周りの人そして、社会の助けを得て、父が重い病氣から回復できたから。

15年前の5月の夕方、父は倒れた。高いいびきをかきながら床に横たわる父を最初に見つけたのはいとこの姉だった。異常な雰囲気を感じ取り、泣きながら母と叔母の所に走ったという。祖父を病気でなくし、高いいびきが危険な症状と知っていた母は父を介抱す

る一方で、叔母に即救急車を呼んでもらった。

あつと言う間に救急車が来てくれた。病院でもお医者様が待っていて下さり、すぐに処置、検査が行われ、「くも膜下出血」と診断された。中大脳動脈が枝分かれするところに来た先天的なこぶが破裂したという。そして、その夜遅く患部をチタン製クリップで止める手術が行われた。

ドラマでは、手術室から出てきたお医者さんが「手術は成功です。」と言って、みんなの笑顔でハッピーエンドを迎える。けれど、現実はその簡単ではない。

父は、手術が成功してしばらくの間意識を取り戻したものの、すぐに意識不明の重体に陥った。出血すると脳が腫れて頭蓋骨内部の圧力が上昇し危険な状態になる。父の場合は、数日間生死の淵をさまよった。とても危険な状態は脱しても、危険な状態はまだ続く。くも膜下出血発症後3、4週間、脳血管れん縮や水頭症のおそれがあるためだ。「病院に運び込まれるのがあと一秒遅かったら、亡くなっていたでしょう。」危険と言われる数週間が過ぎた時、主治医の先生がおっしゃった。もし、救急車がすぐに来てくれなかったら、父は助からなかっただろう。健康な時には気付かないけれど、一刻一秒を争う場面で、信頼できる消防救急サービスがあるということは何てありがたく、心強いことか。

命の危険が去っても、今度は厳しいリハビリが待っている。ベッ

トに寝たきりだったので、最初は病室の壁の伝い歩きから始めた。

この頃いろんな人がお見舞いに駆け付け、励ましてくれた。2ヶ月半の入院、2回の手術を経て退院する時、回復できた幸運に感謝しながらも、まず直面するのがお金の問題だった。でも国民健康保険に加入していれば、自己負担分は3割、その上、高額療養費制度を利用できる。日本の医療制度は病人の療養の援助だけではなく、社会復帰への不安を軽減し生きる勇氣を与えてくれた。

くも膜下出血で倒れた場合、死ぬか、寝たきりになるか、社会復帰はできるか、確率は3分の1だという。重症だった一命を取り留め、社会復帰できたのは、周りの人達と日本の医療制度がもたらした奇跡だと思う。

こうして奇跡的に回復し社会復帰を果たした父が、この世に生き残った証として私が生まれた。父の口癖は、「自分一人で生きていると思うなよ。」だ。この言葉の意味をかみしめながら、私は生きていく。

日高納税貯蓄組合連合会 会長賞

公益社団法人御坊納税協会 最優秀賞

日高高等学校附属中学校 2年

土井 希さん

「暮らしを守る社会保障」

令和元年度「税に関する中学生の標語」優秀作品

日高地方租税教育推進協議会は、税を考える週間(11月11日から17日)の一環として、「税に関する中学生の標語」の募集を行いました。

審査の結果、御坊市内の中学校から右記の皆さんが優秀作品に選ばれました。

税金で 変わる生活 変える未来

御坊中学校 3年

山本 陽太さん

考えよう 未来を支える 税のこと

日高高等学校附属中学校 2年

城山 和樹さん

様々な 税が暮らしを 支えてる

日高高等学校附属中学校 2年

古久保 さくらさん